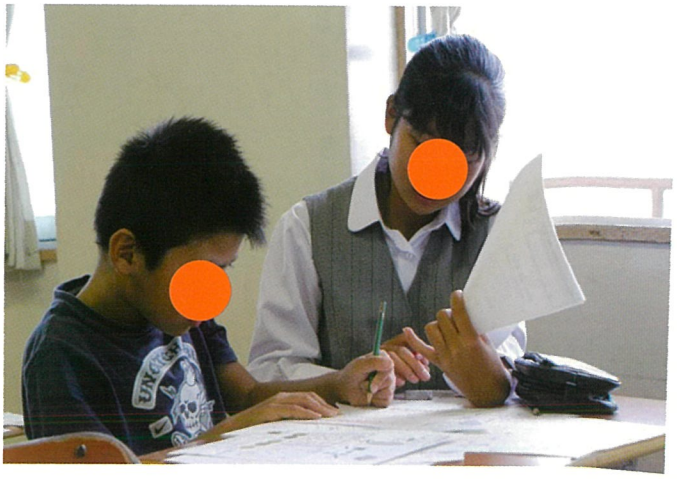
文部科学省委託事業

「小中一貫学びの手引き」

～小学校から中学校への円滑な接続を目指して～



平成27年11月

入間市教育委員会

はじめに

入間市では、学校力を高め、子どもたち一人一人に豊かな人間性を育むため、小中一貫教育を推進しています。各小・中学校においては、目指す子ども像の実現に向け、教員の相互乗り入れ授業、合同研修会、児童・生徒の交流等、中学校区の特色を生かした様々な取組が行われています。

この「小中一貫学びの手引き」は、小学校から中学校への接続をより円滑なものとするため、教師用の手引き書として作成しました。小・中学校の間には、学習指導や生徒指導、進路指導や課外活動において大きな差異があります。また、小学校６年生を対象とした意識調査によると、中学入学にあたり友だちとの人間関係、部活動、新しい教科や教科担任制などに不安を持っていることがわかりました。そこで本書の前半部分では、「生活」「学習」「部活動」の不安を軽減させる一助として、小学校６年生と中学校１年生を対象とした授業実践例（指導案）を示しました。併せて職員の授業力の向上を図るために、「模擬授業の実践」として合同の職員研修会の持ち方を示しました。

また後半部分では、小・中学校の教職員が共通理解を深め、一貫した指導により成果を上げている、黒須中学校区の「学びの手引き」を示しました。

各中学校区におかれましては、本書を活用して、小中一貫教育の充実が図られることを願います。

※手引きの構成

1　小・中学校の接続を目指した実践例

平成２６・２７年度入間市教育課程研究委員会により作成された授業実践例です。

（1）　生 活 編「中学生になる準備」中学１年生の訪問を通して・・・・　1

（2）　学 習 編「中学生になる準備」中学校教諭の訪問を通して・・・・　3

（3）　部活動編「中学生になる準備」　・・・・　6

（4）　生活のしおり編「中学校の一員として」　・・・・　9

（5）　生徒会活動　編「中学校の一員として」　・・・・１１

（6）　職員合同研修編「模擬授業」アクティブラーニングの実際　・・・・１３

2　「小中一貫教育学びの手引き」

黒須小学校・黒須中学校編

小・中学校それぞれの学校生活等について、「重点」「学力」「人間力」「体力」「全体」という項目ごとに学校の取組を取り上げました。

小学校と中学校の取組が豊富な写真により見開きで示されています。

（1）生活編　小学６年生３学期の小中一貫授業

第６学年〇組　学級活動指導案

平成〇〇年〇月〇日（〇）　第〇校時
指導者　中学校教諭　〇〇〇〇〇
小学校教諭　〇〇〇〇〇

1　題材　「中学生になる準備〈生活編〉」

2　児童の実態と題材設定の理由

中学校への進学を控えた６年生は、中学校生活に向けて様々な希望や不安を抱いている。教科担任制、部活動、先輩との関係など、いろいろな不安を抱いていることがアンケート等から伺える。本題材の学習を通して、その不安を軽減し、期待と希望を胸に進学できるようにしたい。

3　指導のねらい

＜小学校６年生＞

・中学生との交流を通して、中学校に興味を持たせ、中学生になるという自覚を持たせるとともに卒業を意識させる。
・中学生との交流を通して中学校の様子を知り、不安を軽減するとともに前向きな気持ちで卒業へ向かうことができるようにする。

＜中学校１年生＞

・小学生との交流を通して、２年生になる自覚を持たせるとともに、先輩として優しく後輩に接する態度を育てる。

4　評価規準

集団生活や生活への関心・意欲・態度	集団の一員としての思考・判断・実践	集団活動や生活についての知識・理解
学級や学校の生活の充実と向上にかかわる問題に関心を持ち、他の児童と協力して自主的に集団活動に取り組もうとしている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために話し合い、自己の役割や責任、集団としてよりよい方法などについて考え、判断し、信頼し、支え合って実践している。	みんなで楽しく豊かな学級や学校の生活をつくることの意義や、学級集団としての意見をまとめる話合い活動の効率的な進め方などについて理解している。

5　事前指導

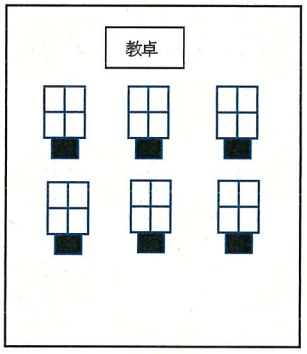
（1）１２月中に、中学校生活について、知りたいこと、不安なことなどアンケート調査を行う。（小中一貫教育アンケート）
（2）１月中に小学生のアンケート結果をもとに、当日にむけて準備を行う。

6　本時のねらい

〈小学校〉　中学生になることを意識し、前向きな気持ちで卒業に向かうことができるようにする。
〈中学校〉　先輩として、後輩に優しく接し、２年生になる自覚がもてるようにする。

当日の準備、授業開始まで

・授業開始１０分前、〇〇中学校職員、生徒来校。
・６班編成で机を組んでおく。（１班４～６名）
・各クラス図工室から角イスを中学生分、準備し班に入れておく。
・中学生は、上履きを持参する。　下駄箱を準備し、表示する。



7　展開

段階	学習活動	○指導上の留意点	教材・資料
導入	①　今日のめあてについて知る。 ②○○中学校生による自己紹介を行う。	○めあてを確認し、明るい雰囲気の中で授業が行えるようにする。	
展開	③○○中生の代表から、中学校生活についての簡単な説明を聞く。（全体） 中学生代表による説明 ＜他の実践例＞ 学校生活を劇で説明したり、校歌を歌ってあげたりする活動も考え実施も考えたい。	○中学生の代表数名が学校生活について説明をする。	
	④○○中生に、学校生活について聞いたり、質問したりして深める。（グループ） グループごとに中学生と交流	○小学生が班長をし、司会をする。 ○机間指導をし、中学生が返答に困っているときはアドバイスをする。 ○残り５分になったら、声をかける。	・中学生･･･教科書、時間割、生徒手帳等、児童のアンケート結果をもとに必要な道具を考える。
終末	⑤小学生による感想発表を行う。 ⑥学習のまとめをする。 児童による感想の発表	○各クラス２名、代表で感想発表を行い、中学生に感謝の気持ちが伝わるようにする。	

8　事後指導

・小学生･･･中学生と交流してみてのアンケートを実施し、中学生にお礼の手紙を書く。

・中学生･･･小学生との交流の様子、態度について賞賛する。小学生からのお礼の手紙を読み、達成感を味わわせる。

（2）学習編　　小学６年生３学期の小中一貫授業

第６学年〇組　学級活動指導案

平成〇〇年〇月〇日(〇)第〇校時
指導者　小学校教諭〇〇〇〇〇
ゲストティーチャー　中学校教諭〇〇〇〇〇

1　題材　「中学生になる準備〈学習編〉」

2　児童の実態と題材設定の理由

中学校への進学を控えた６年生の児童が不安に思っていることの一つが学習についていけるかということである。本題材を学習することで、その不安を取り払い、期待と希望を胸に進学できるようにしたい。

中学校３年間は義務教育の仕上げの段階であり、卒業後の進路を見通した学習指導が行われる。小学校ではただ勉強が苦手というだけであったものが、具体的な進学先や自分の将来を真剣に考えた時、自己嫌悪に陥ったり、他の人間関係や生活面にも大きな影響を与えたりすることもある。

そこで本題材を、中学校においては、特に客観的に自分をとらえる態度と将来や夢へ向かって努力を続ける姿勢が重要となることを理解させるきっかけとしたい。

3　指導のねらい

中学校と小学校の違いを認識させ、進学へ向けての準備をスタートさせる。定期テストが実施されること、成績のつけ方が変わること、成績と進路の関係があることなどが大きな違いである。また、「不安」を増大させるのではなく、チャンスは平等、公平に与えられる世界であり、やりがいあふれる場だというとらえ方をさせるように留意したい。

小学校の総復習を行う手立ても用意し、自分の得意分野・不得意分野を認識させ問題集等の準備、補習などの計画を立てる。

4　評価規準

集団活動や生活への関心・意欲・態度	集団の一員としての思考・判断・実践	集団活動や生活についての知識・理解
学級や学校の生活の充実と向上にかかわる問題に関心をもち，他の児童と協力して自主的に日常の生活や学習に取り組もうとしている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために学習の課題について話し合い，自分にあったよりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。	みんなで楽しく豊かな学級や学校の生活をつくることの意義や，学級集団としての話合い活動の効率的な進め方や中学校の学習の仕方などについて理解している。

5　事前指導

（1）　進学に対する不安や悩みに関する小中一貫教育のアンケートの実施
（2）　カウントダウンカレンダー作成

6　本時のねらい

中学校への進学へむけて、学級集団として準備を行う心構えを身につける。

7　展開

段階	学習活動	○指導上の留意点	教材・資料
導入	①　誰でも新しい世界に入る際には、不安を持つものである。卒業までの過ごし方・入学準備を、学級全体の問題として気付かせる。	○卒業までの日数を確認し、中学入学が間近なことを意識づける。 ○アンケート結果より学習面の不安を取り上げる。	・アンケート結果
展開	②　班ごとにアンケート結果をもとに学習面において不安を分類する。 班長が黒板に貼り、発表する。 1　自身の学習状況に関する不安 2　中学校に対する不安 3　その他の不安　　の３種類に分ける。 ③　1，2，3の解決策を班で話し合う。 班長が黒板に貼り、発表する。	○小学校での学習事項が身についていないための不安と中学校を知らないための不安、その他の不安とにグループ分けをする。 ○　1→問題集や補習・家庭学習の計画をたて、卒業までに学ぶべきことをしっかり身につける。 2→中学校のことを知る 3→その他	・黒板に磁石で貼れるように色画用紙に書かせる。
	ゲストティーチャー 発問A　中学校と小学校で最も違うことは何でしょう。 ☆「自らの力で進路を切り開かなければならない」 義務教育のまとめの３年間であり、中学校卒業時は一人の人間として「自立」が求められる。社会人として通用しなければいけない。実際には求人はほとんど無いので、９９％の生徒は高校進学を希望する。 ☆　教科ごとに専門の先生が教える。 ☆　定期テストがある。		
	ゲストティーチャー 「中学式の学習スタイル」を考えてみよう。 発問B　毎日宿題がでる？ ☆　毎日は、出ないことが多いです。 ☆　定期テスト前に、ワークや問題集、ノートを提出することが多いです。 発問C　自学自習型　とは？ ☆　予習(教科書を読む)・復習(問題集やワーク、ノートの整理) →提出日に備える。		
終末	③　段の学習習慣→定期テスト →進路を切り開く→夢の実現 自分の卒業までの生活のめあてを明確に持たせる。	○小学校時の自分から変わるチャンスであることに気付かせるようにする。 ○中学校は、がんばれば認められるというように明るい展望を持たせるようにする。	

8　事後指導

具体的な行動目標の決定…自己決定しためあての達成に向けて実践する。学級で振り返る時間を設け、反省を活動にいかせるようにする。

いよいよ中学生！卒業式まであと　　日 入学式まであと　　日

6年　　組　　番 氏名

（1） 小学校を卒業し、中学校へ入学するにあたって不安なことのアンケート結果をもとに学習面の不安は、どんなことがあるのか抜き出してみよう。

小学校の学習にかかわること	中学校にかかわること	その他

（2） （1）の不安を解消するにはどうしたらよいのでしょうか。

小学校の学習にかかわること	中学校にかかわること	その他

（3） 中学校の先生のお話を聞いて

（4） 卒業式・入学式までにがんばること

（３）部活動編　　小学６年生の小中一貫授業

第６学年○組　学級活動指導案

平成○○年○月○日（○）第○校時
指導者　小学校教諭○○○○○

1　題材　「中学生になる準備〈部活動編〉」

2　児童の実態と題材設定の理由
　中学校に入学後、生徒が最も楽しみにしている活動の１つが部活動である。その反面、小学生が中学校進学後に最も心配しているのが上級生との関わり方である。一般的に、「上級生は怖い、厳しい」といったイメージをもっている生徒が多い。上級生と関わる時間が最も長いのが部活動である。入部した部活動に後悔し、転部や退部する生徒も時々見受けられる。こうしたことを少しでも防ぎ、楽しく充実した部活動になるよう、部活動について具体的に知り、中学校入学後、適切な部活動を自らの意志で選択できる力を身につけさせたい。指導時期は３学期である。

3　指導のねらい
　中学校の部活動について知り自分に合った部活動について考え、自らの力で部活動を選択させる力を養う。

4　評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
部活動についての話し合いに興味を持ち、進んで参加している。	部活動について自分の考えを持つことができる。また、部活動を選択するのに必要な視点について考え、自分にあった部活動を選択できる。	部活動を選択するための様々な要件について理解している。

5　事前指導
　中学校の一日入学で「部活動紹介」（部活動見学）が行われた。現時点で、「自分が入部したい部活動とその理由」についてアンケートを実施し、６年生の部活動についての実態調査をしておく。

6　本時のねらい
　部活動を選ぶための様々な要件、視点について学び、中学校入学後、自分に合った部活動を自ら考えて選ぶための下地を作る。また、部活動の視点から現在の日常生活を振り返る機会とする。

7　展開

段階	学習活動	指導上の留意点	教材・資料
導入	①　中学校の部活動の様子（ビデオ）を見る。	○これから進学する中学校の運動部、文化部の活動の様子を視聴させる。 ○中学校に依頼して撮影してもらう。（運動部、文化部の両方を撮影する。）	・VTR
展開	②　本時のねらい 部活動について考えよう	○教師が提示する。	・ねらいを記入した短冊
	③アンケート結果を聞く。	○部ごとの希望者数を発表する。 ○児童名は言わず、「入りたい部活動とその理由」について読み上げる。 ○未定の児童についても発表する。	・アンケート結果（黒板に掲示）
	④ アンケートについての感想記入と発表する。	○ワークシートに記入させる。 ○数名に発表させる。	・ワークシート

	⑤　1「部活動のねらい」 2「部活動の行われる時間帯」 3「部活動における主な大会や発表会」について知る。	○教師が資料を配付して判読する。 ○中学校に依頼し、「部活動保護者会」「部活動実施要項」「年間指導計画」などの資料を収集しておく。 ○部活動の「ねらい」「活動時間」「主な大会」を示したプリントを作成しておく。 ○「長期休業中の予定表」も配布するとよい。 ○運動部の公式戦は市予選から県大会、関東大会へとつながること、文化部にも様々な発表の場があることに留意させる。 ○数名に感想を発表させる。	・プリント資料 ・ワークシート
	⑥　「部活動をする上で大切なことは何だろう。」 →話し合う。	○班で話し合い、ワークシートに記入させる。班で発表する。 ○部活動は同学年どうし、上級生との人間関係が大切であることに気づかせたい。 ○次のような内容が考えられる。 ・継続性　・協力性　・積極性 ・あいさつ　・言葉遣い　・礼儀正しさ ・コミュニケーション能力（聞く･伝える･話す） ・粘り強さ　・体力　など	・ワークシート
終末	⑦　今日の授業の感想を記入し、発表する。	・ワークシートに記入させ、数名に発表させる。 	・ワークシート

8　事後指導

「生活を見直そう」（学級活動）の中で現在の生活を振り返り、授業で話し合った「部活動で大切なこと」が生活の中で実践できているかを考えさせる。

学級活動　ワークシート

月　　日（　）

いよいよ中学生！　部活動について考えよう！

6年　　組　　番　氏名

1　部活動アンケート（入りたい部活動とその理由）の結果を見て、感想を記入しよう。

2　中学校の部活動の資料を見て感じたこと、思ったことを記入しよう。

「ねらい」について
「行われる時間帯」について
「大会や発表会」について
その他に気づいたこと

3　部活動をする上で大切なことは何だろう。（班で話し合ってみよう。）

自分の意見	班の人の意見

4　今日の授業の感想を記入してください。

（4）生活のしおり編　　中学１年生１学期の小中一貫授業

第１学年〇組　学級活動指導案

平成〇〇年〇月〇日(〇)第〇校時
指導者　　中学校教諭〇〇〇〇〇
指導者　　小学校教諭〇〇〇〇〇

1　題材　「中学校の一員として〈生活のしおり編〉」

2　生徒の実態と題材設定の理由

中学校へ入学し、生徒は新しい生活に対して期待と不安にあふれ、緊張している。小学校において中学校の生活について指導やアドバイスを様々な場面で受けてきている。本題材を学習することで、不安を取り払い、中学校の生活に適応できるようにしたい。

中学校３年間は義務教育の仕上げの段階であり、社会へ出る準備の段階である。新しい環境における施設の変化、集団生活がもたらす人間関係の変化は生徒の心に不安をもたらす要因となる。その中でも自分らしさを持って生活していく力が必要である。その力は中学校において特別に育てるものでなく、小学校から身につけてきた力の延長にある。

そこで、実践を通して小学校生活の約束の延長線上に中学校のきまりがあることを理解させると共に、中学校生活に早く適応できるように、本題材をそのきっかけとしたい。

3　指導のねらい

あいさつ、返事、くつそろえ等基本的なことは小学校においての約束と、中学校でのきまりは変わらない。実際に小学校で身につけたことを中学校でも実践することで、他の小学校からの同級生も含めた新入生全体における同一行動、学校全体での共通行動を行うことで一人一人の「不安」を取り除きたい。同時に、資料を活用し自分たちだけで校舎内を訪問することで、施設等について知り、新しい生活環境に適応できるように留意したい。

4　評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
学級や学校の集団や生活に関心をもち、望ましい人間関係を築きながら、積極的に集団活動や自己の生活の充実と向上に取り組もうとする。	集団や社会の一員としての役割を自覚し、望ましい人間関係を築きながら、集団活動や自己の生活の充実と向上について考え、判断し、自己を生かして実践している。	集団活動の意義、よりよい生活を築くために集団として意見をまとめる話合い活動の仕方、自己の健全な生活の在り方などについて理解している。

5　事前指導

（1）小学校５・６年において中学校と共通の「生活のきまり」の実践
（2）小学校６年３学期にも、進学に対する不安や悩みに関する小中一貫教育のアンケートの実施

6　本時のねらい

小学校での生活のきまりの確認と実践を通して、自信と新しい環境へ適応する力を育てる。

7　展開

段階	学習活動	○指導上の留意点	教材・資料
導入	①　教室に入ってきた上級生に対してあいさつをする。	○同じあいさつができたかどうか、上級生が評価する。 ○できていたら誉める。 ○新しい環境に不安と期待を感じている。上級生の言葉から誰もが、最初は同じ気持ちだったことを感じさせる。	・各小学校の「生活のしおり」 **『学びの手引き』** **「あいさつ」**
展開	②　上級生からグループ毎に校内巡りに行くことの説明を受ける。 1　移動の際は無言で移動する。 2　人に会ったらあいさつをする。 3　入退室の仕方 	○小学校での約束と同じであることを色ペンで確認する。	・中学校「生活のしおり」 **『学びの手引き』** **「無言移動」**
	③　小学校教諭の入室に合わせて、上級生の号令であいさつをする。	○自分の作業を止めて、しっかりあいさつする。	
	小学校教諭 発問　職員室への入退室の仕方をしてみましょう。 ☆入室 あいさつ、学年学級、氏名を名乗り、職員室へ来室した目的を述べる。 退室 「失礼しました」		
	④　行き先のカードを班長が引き、経路を班員全員で確認する。 ⑤　グループ毎に校内巡りを実施する。 1廊下ですれ違った人にあいさつをする。 ・無言移動 ・目上の人にあいさつをする。 2特別教室の学年及び小学校の先生等にあいさつをする。	○グループ毎に話合いが持てる。 ○迷いそうな場所に、上級生が立ち、誘導すると共にあいさつ、移動の様子を確認助言する。 ○できたらカードにチェックを入れる。 ・できない時は繰り返し練習をさせる。	校内巡りカード
終末	⑥　小学校教諭から講評を受ける。 小学校教諭や上級生に自分たちからあいさつをする。	○改めてあいさつの大切さと、「できる」という自信を持たせるようにする。 ○「生活のしおり」の活用を促す。	

8　事後指導

日々の実践における繰り返し・・・毎日の生活習慣としてあいさつができる。移動が無言でできることを積み重ねていく。その上で学校のみならず、学校外でもできるよう指導していく。

（5）生徒会活動編　　中学１年生１学期の小中一貫授業

活動計画指導案

1　活動名　　生徒会オリエンテーション

2　生徒の実態と題材設定の理由

中学校へ進学したばかりの１年生は中学校生活に様々な不安を抱いている。難しくなると感じる教科、教科担任制、生徒会活動や部活動を通した先輩や新しい人々との人間関係などに不安を抱いていることがアンケート結果からうかがえる。こうした不安を解消し、中学校生活に対する興味・関心を高め、自校への誇りと所属感を育てることを目指す。また、在校生には温かい気持ちで１年生を迎える思いやりの心を育む。

3　指導のねらい

（1）新１年生が自校の生徒会活動、部活動等について知り、入学後の不安を解消し、中学生としての自覚を高める。

（2）在校生は新１年生に自校の内容を分かりやすく説明することで思いやりの心を育てる。

（3）中学校全体の生徒が自校の生徒会活動や部活動、学校行事に関心をもち、自校に対する誇りを高め、所属感を深める。

4　評価規準

集団活動や生活への関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての思考・判断・実践	集団生活や集団についての知識・理解
自校の生徒会活動、学校行事に関心をもち、新しい中学校生活に意欲的に参加しようとしている。また、自校について誇りを持つことができる。	上級生や生徒会の一員としての責任や役割について考え、中学生としてふさわしい態度で責任を果たしている。	生徒会オリエンテーションの意義を理解するとともに、望ましい学校生活について考えることができる。

5　活動内容

（1）事前の活動

期日	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
3月〇日 (放課後)	【生徒会本部会】オリエンテーションの実施計画作成 ・日時・ねらい・場所・内容・事前準備・役割分担・中央委員会の内容について話し合う。	・小学６年生への事前アンケートの結果を準備し、小学生が中学校生活へ不安をもっていることを理解させる。 	・オリエンテーションのねらいを理解し、自主的に準備しようとしている。 (知・理)【観察】
3月〇日 (放課後)	【中央委員会】本部役員は専門委員長、部長へ行事についてのねらいと今後の計画、パンフレット原稿作成の依頼を行う。校歌合唱についても伴奏者、指揮者を募集する。	・ここでもアンケート結果を資料として生徒に配布し、行事のねらいを知らせる。 ・新入生の頃の気持ちを思い出させる。	・ねらいをよく理解し、積極的に話し合いに参加している。 (関)【観察】
3月〇日～春休み	・専門委員長、部長は原稿の作成と当日の説明を考える。 ・部長は他の部員と協力し実演内容を考える。 【生徒会本部会】本部役員はリハーサル、当日の進行についての準備をする。	・専門委員会担当者、部活動顧問にも原稿の内容、生徒の説明と実演について指導してもらう。	・積極的に準備している。 (思・判・実)【観察】

4月○日 (放課後)	【生徒会本部会】パンフレット原稿の点検と印刷	・ここでもねらいについて振り返らせ、原稿内容が適切か考えさせる。	・本部役員として自覚をもって仕事をしている。 (関)【観察】
4月○日 (帰りの会)	・全校生徒でパンフレットの綴じ込みを行う。	・１年生の分は上級生が綴じ込み、配布する。	・パンフレット作成に興味をもって取り組んでいる。 (関)【観察】
4月○日 (放課後)	【リハーサル】(体育館) ・当日の流れを確認する。 ・２，３年学級委員はこの行事のねらいと協力依頼を各学級にしておく。	・生徒会本部が中心となって全生徒で取り組む雰囲気を作る。 ・新入生代表の生徒に「お礼の言葉」を事前指導しておく。	・上級生としての役割や責任を自覚し、積極的に取り組んでいる。 (思・判・実)【観察】

（2）当日の活動

司会と冊子資料の作成：生徒会本部　視聴覚担当：放送委員会
会場準備：生徒会本部、専門委員長、各部長
①開会の言葉（生徒会本部）
②学校長の言葉
③生徒会長の言葉
④生徒会について（生徒会本部）
⑤専門委員会について（各専門委員長）
⑥部活動紹介【説明と実演】
（部活動委員長、各部長、副部長と代表の部員）
『学びの手引き』参照・部活動見学、体験
⑦主な学校行事について（生徒会本部）
・スライドショー
⑧校歌合唱（生徒指揮者、伴奏者）
『学びの手引き』参照・小６、中１の校歌練習
⑨新入生代表「お礼の言葉」
⑩閉会の言葉（生徒会本部）

（3）事後の活動

期日	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
4月○日 (当日帰りの会)	・感想記入（１０分間）	・新入生と２，３年生のお互いの思いを補足しておく。	・中学校生活に前向きな気持ちを持てている。 (知・理)【感想文】
4月○日 (給食時)	・生徒会長から協力への感謝の言葉を放送で述べる。 ・１年生の感想を１，２点放送する。	・生徒会長としての自覚を促す。	・自分たちのこととして興味をもって聞いている。 (関)【観察】
4月○日 (学活)	・学級の係、専門委員決め	・オリエンテーションのパンフレットを使用しながら話し合わせる。	・積極的な気持ちをもって役割を担おうとしている。 (関)【観察】

（6）『学びの手引き』活用編　　職員研修実践例

○○小学校・○○中学校 教職員合同研修プログラム（例）

平成○○年○月○日(○)　○○：○○～
進行：　小学校 職員研修担当
中学校 職員研修担当

1　研修テーマ　「**模擬授業で実践力を高めよう！**

～ 教員集団も、アクティブ・ラーニング！ ～」

2　題材設定の理由

子供たち一人一人の「生きる力」を確実に伸ばしていくためには、教職員の資質能力の向上、とりわけ日々の授業力を高めることが不可欠である。

そこで、「だれにでもわかる授業」「考え続けられる授業（だれ一人途中で離脱することのない授業）」を目指しUD（ユニバーサルデザイン）の視点に立った授業づくりを小中の教員が合同で研究していくことにした。

その際、小中の教員の意識と力点の共有化を図り、授業のUD化を徹底させるために、『学びの手引き』に則って小中教員の協働により研究を進めることとする。

また、研修にあたってはアクティブ・ラーニング（主体的・協働的な学び）の手法を取り入れ、子供たちのみならず、教員も「模擬授業」を通して自ら考え、体験することによって学ぶことのできる、質の高い研修にしたい。

3　研修の柱とねらい

【UDの視点に立った授業づくりを研究することにより、授業力の向上を図る】

《柱となる取組》

教員同士による「模擬授業」の実践

：「*教員集団も、アクティブ・ラーニング！*」

《ねらい》

○　教員のやる気と参画意識を高める。
○　教員の思考力・表現力を高める。
○　UDの視点とスキルを身につける。
○　小中教員間のコミュニケーションを一層豊かにする。

4　事前の取組

（1）　研修までに小中教員が『学びの手引き』を熟読し、その学区の小中一貫教育の重点や共通指導事項、教室環境や授業におけるUDの視点等について、共通理解を図っておく。

（2）　小中教員による「模擬授業」を展開するためのグルーピング（部会分け）を行っておく。

例）①「知」部会　②「徳」部会　③「体」部会　④「調査・広報」部会

（3）「模擬授業」の指導案（または授業構造案・授業デザイン）を作成しておく。

5　研修の流れ

（1）全体会（研修の趣旨や方法の説明等）

（2）各部会（『学びの手引き』の該当箇所や指導案の確認、「模擬授業」の展開、研究協議）

6　研修の展開（９０分～１２０分の取組例）

段階	活動内容	留意点	教材・資料
導入	①　本時の「模擬授業」に関わる共通理解事項を**『学びの手引き』**によってあらためて確認する。 ②　本時の指導案（授業構造案・授業デザイン）について、授業者が簡潔にプレゼンを行う。	○ＵＤの視点や授業づくりの力点、本日の授業の趣旨等についておさえておく。	・**『学びの手引き』**（冊子） ・指導案（授業構造案・授業デザイン）
展開	③　本時の指導者役となった教員が、小中の教員を「児童・生徒」に見立て、「授業」を展開する。 ④　「授業」後、「ふりかえり」（研究協議）を行い、気付いた点や修正すべき点、課題などを出し合って指導方法や内容について検討する。 ⑤　今度は、修正・改善を加えた指導案によって、別の教員が同じ単元・題材で「模擬授業」を行う。 ⑥　再度「授業」の「ふりかえり」を行いあらためて指導案を検討し直す。	○原則として、「授業」を途中で止めることはせず、質問や意見は、後の「ふりかえり」にて出し合う。 ○「児童・生徒」役の教員は、予想される子供の反応をふまえながら授業を受ける。 ○「山場」（感動場面）の設定や「考え続けられる」展開であったか、などについて検討し合う。 ※「山場」までの時間は、20分が限度… 	・「模擬授業」に必要な教材・教具（掲示物、パネル、ＰＣ、電子黒板、タブレット…等）
終末	⑦　「だれにでもわかる授業」「考え続けられる授業」であったかを評価する。 ⑧　時間があれば、全体会にて報告し合い、各部会の成果と課題を共有する。	○次回の「模擬授業」の課題を明らかにするとともに、役割分担等についても確認する。	・「ふりかえり」用紙 ・記録用紙

7　事後の取組

「模擬授業」後の「ふりかえり」（研究協議）によって明らかになった課題をふまえ、指導案を再検討し、必要に応じて修正を加える。次回研修時の「模擬授業」第２弾では、よりレベルアップした授業（原則として前回と異なる教員が実施）が展開できるようにする。